

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4170400016
法人名	社会福祉法人 天寿会
事業所名	グループホーム大地
訪問調査日	平成 19年 9月 18日
評価確定日	平成 19年 10月 31日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170400016
法人名	社会福祉法人 天寿会
事業所名	グループホーム 大地
所在地	佐賀県多久市北多久町大字小侍132-6 (電話) 0952-74-3100

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年9月18日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成19年 8月 16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7 人	常勤	3 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月16日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	0 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	82 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人剛友会諸隈病院 松尾歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな山里に位置し、周りの緑と四季の移ろいは、心を癒してくれる環境である。法人はISO(国際標準化機構)の認証を受けており、グループホームの職員はこのことを誇りに思い、常にサービスの質の向上に取り組んでいる。毎年、法人全体の基本方針が策定され、ホームでもこれを基にして、目標を定め、理念「気配り・笑顔・安全」の実現に職員一同が心一つにしている。入居者の尊厳を大事にし、人生の先輩として尊敬の念を常にもって接している。「自分の家だったら・自分の家族だったら」という思いで支援が行われている。入居者の豊かな表情と笑顔は、職員との信頼関係と安らぎのある毎日の暮らしがうかがわれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回改善点は無かったが、パンフレットを新しく作りかえ、地域との関わりも盛り込んでいる。また、家族と相談し、湯呑みだけでなく、ご飯茶碗も個人用を使用している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員みんなで再検討し、目標と理念の実現を目指して、サービスの質の向上に取り組むよい機会にしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>理念についての理解を得たり、支援の様子についての説明と意見交換が主な内容である。グループホームについての地域の関心や認識が深まり、防災避難訓練に地域の方が参加したり、民間防災協力隊の一員にホームも登録している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や電話によって家族に報告、相談、連絡するだけでなく、全館に置いてあるハガキによる要望、苦情等の投函をお願いしている。また、毎年、家族アンケートを実施、分析し、サービスの改善に役立てている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの夏祭りに地域の方に参加してもらったり、希望する入居者は地域の祭りに参加し、地域の方と共に楽しんでいる。地域の方からの認知症に関する相談に応じる等、地域への還元にも努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎年、法人の基本理念が設定され、それを基にして、グループホーム独自の目標が話し合われている。目標の一つに「地域や家族の方とのコミュニケーションを図る」ことをあげており、その目標から基本理念を導き出してしている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員皆で創りあげた理念「気配り、笑顔、安全」をホーム内に掲示して、職員の目にも絶えず触れる様になっている。また、職員の個人ノートにホームの目標、理念、個人目標を各自が記し、理念の実現に努力している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間計画に「地域交流」の項目があり、地域の方と共に夏祭りや春うきうきステージ等が開かれている。保育園児や小中学生との交流会も行われている。希望する入居者には地域の夏祭りにも参加してもらい、地域の方々と接している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の結果については、職員一同で検討している。また、毎年ホーム独自で家族アンケートを実施し、その結果を分析する中で、入居者がより穏やかに自分らしく毎日を過ごせる様に努めている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地元区長、婦人会会長、家族代表等で構成した運営推進会議が開催され、ホームと地域の相互理解が図られている。入居者と職員の手づくりのおやつを試食をするなど、よりホームを理解してもらえるような関係づくりも行われている。入居者と職員が一緒になって作ったおやつを試食もある。会議内容は、会議録にきちんとまとめられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の高齢者保健福祉計画策定委員や地域包括センター運営委員を務めており、行政との結びつきが深い。最新情報に接する機会や意見交換の場も多い。民間防災協力隊やAED講習会も行政との関係で実現している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に訪れた家族には、必ず近況を報告している。また、電話での報告も多用している。年4回の家族交流会や隔月発行のホーム便り「ひなたぼっこ」や法人機関紙「ほっとらいん」でも具体的な様子を報告している。アルバムも作成し、家族に自由に見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会や面会時に要望や意見を聴くだけでなく、玄関にハガキが置いてあり、家族に家で意見を書いてもらい、投函できるようにしている。いただいた意見や要望については、改善策を検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置については、ホーム勤務に合うような職員の性格や適性を考慮している。異動は最小限抑えている。夜間は、夜勤勤務2名を配置している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	きちんとした研修年間計画があり、月2回の法人内での研修が行われている。外部での研修会へも積極的に参加を促している。また、職員は個人毎に研修の主題を持っており、その発表会も開かれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係事業者団体の委員会に所属し、サービスの質の向上に役立っている。他の施設との職員交流会もあり、意見交換や事例研究の機会も持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者にホームに遊びに来てもらったり、入居後、当初は自宅に一時帰宅をする機会を多くしている。心理的な不安感を出来るだけ無くす配慮がとられている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者を人生の先輩として尊敬する気持ちを有している。また、入居者から教えられることも多々ある。入居者の感情や気持ちを理解し、共感しながら家族に接する様な心で接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言葉や行動、表情からその真意を汲み取る努力が払われ、また、献立の希望、遠出(ドライブ)の行き先、自然発生的な役割等、あらゆる面で入居者の思いの実現に努めている。行事等へは参加も一律でなく、参加しない自由も認めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のあらゆる情報や本人や家族の希望等は全職員が共有している。それらに基づいて、入居者本位の具体的で実現可能な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的な見直しだけでなく、状態の変化や本人や家族の要望に応じて、随時、臨機応変な見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一時帰宅や外泊、外出、病院や美容室への送迎、物品の購入など、柔軟に対応している。地域からの認知症に関する相談にも応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的な往診の他に、入居者の状態の変化や家族の要望により、受診の支援がなされている。人工透析が必要な方もあり、常に医療機関と連携がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約書を交わす際に、家族に重要事項の一つとして説明し、話し合いがもたれている。軽度の状態変化であっても常に家族に連絡し、重度化された場合のあり方についても具体的に話し合い、医師とも情報を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室への入室は本人の了解を受けている。排泄の誘導や整容についてもそれとなく言葉をかけている。居室でポータブルトイレを使用している方には、目隠しをしている。居室のドアを開けても居室が一度に見渡せない様に設計されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務本位の一律な一日の流れでなく、各入居者毎の日課予定に基づいた支援が行われている。あくまでも自分の生活リズムで毎日を過ごしておられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分用の茶碗、湯呑みを使つての食事である。職員も同じ食卓を囲み、会話をしながら一緒に食事を摂っている。また、食事の準備にたいしても感謝の念を表す言葉かけをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴できる様に風呂の準備がされている。入浴時間帯や入浴順番も希望に合わせている。たまには気の合った方と二人一緒に入浴されることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、金魚の餌やり、洗濯物干し、プランターでの野菜栽培等、自然体で好きな事や役割り、楽しみごとがある。生花の免状をもっておられる入居者に、月に2回お花を教えてもらっている等、生活歴を活かした支援の例も多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	希望される方は、毎日の散歩がある。散歩しながら野の草花を摘んだり、みかんの花の香りを感じたり、季節の変化を体感しておられる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室、ベランダへの出入り口には、施錠がなく、自由に入出入りが出来るため、不安感や閉塞感が無い。入居者の出入りは職員のと目と耳や、様子の察知で確認されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策に関する体制がきちんと整備され、非常用の食料、水等も準備されている。日中と夜間を想定した防災非難訓練が、年に4回実施されている。地元消防団や近隣の方にも参加してもらい、指導も受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	麺バイキングや入居者の希望を取り入れた献立表を作成し、栄養士に指導を受けている。栄養士は献立表に指導の助言記録を残している。摂取食事量や水分摂取量も把握されている。ソフト食献立を取り入れているので、どの方も違和感無く、食事を楽しんでおられる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や居間は、カーテンや観葉植物を置くことによって明るくて柔らかい光が差し込んでいる。テレビは食事時だけでなく、その他の時間もできるだけ消しており、快い静かな音楽が流れている。食卓には散歩の時に摘んできた野の草花が活けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとり入居者が静かに落ち着いたくらしが出来る様に、その方に合った居室が構成されている。各居室には、馴染んだ机や椅子、整理だんす、図書、縫いぐるみ、仏壇、家族の写真などが置かれ、家族と相談しながらの居室づくりがされている。		